

目白大学 新聞

第四六号

二〇一九年二月二日

一九九四年五月一日創刊

編集

目白大学社会学部

〒一六一八五三九

新宿区中落合四一三一一

TEL

〇三一一五九九六一三三〇

練習を積み重ねて勝利へ 目白研心野球部 日大三高を破る！

2018年10月8日、秋季東京都高等学校野球大会で大波乱が起きた。強豪、日本大学第三高等学校が二回戦で無名の高校に敗れたのだ。7対5、このとんでもないことを成し遂げたのが、目白研心高等学校野球部である。

部10年、部員はたった24名、高校野球では無名ともいえる目白研心野球部は、この大金星以降、多くのメディアに注目されるようになった。

「勝てる自信は全くなかった」 鈴木淳史監督に日大三高に勝てる自信はあったのかと尋ねると「全勝してとは思わなかった」とはっきりと言う。一方で、

今回の勝因を「選手たちが試合を楽しみ、日大三高と試合をするに当たり、自分たちのやるべきことを徹底したということだと分析する。

「勝てる自信は全くなかった」 鈴木淳史監督に日大三高に勝てる自信はあったのかと尋ねると「全勝してとは思わなかった」とはっきりと言う。一方で、今回の勝因を「選手たちが試合を楽しみ、日大三高と試合をするに当たり、自分たちのやるべきことを徹底したということだと分析する。

「勝てる自信は全くなかった」 鈴木淳史監督に日大三高に勝てる自信はあったのかと尋ねると「全勝してとは思わなかった」とはっきりと言う。一方で、今回の勝因を「選手たちが試合を楽しみ、日大三高と試合をするに当たり、自分たちのやるべきことを徹底したということだと分析する。

「勝てる自信は全くなかった」 鈴木淳史監督に日大三高に勝てる自信はあったのかと尋ねると「全勝してとは思わなかった」とはっきりと言う。一方で、今回の勝因を「選手たちが試合を楽しみ、日大三高と試合をするに当たり、自分たちのやるべきことを徹底したということだと分析する。

「勝てる自信は全くなかった」 鈴木淳史監督に日大三高に勝てる自信はあったのかと尋ねると「全勝してとは思わなかった」とはっきりと言う。一方で、今回の勝因を「選手たちが試合を楽しみ、日大三高と試合をするに当たり、自分たちのやるべきことを徹底したということだと分析する。



10月9日付「日刊スポーツ」の1面が「野球無名」元女子校による大判狂わせを大々的に報じた。目白研心OGの中村アンさんも紹介



鈴木淳史 すずき あつし 1982年生まれ。新潟明訓高校を卒業後、中央大学野球部へ進学、山梨日本航空高校野球部コーチを経て目白研心高校野球部監督に就任。

「部員が多くなったときからやることは変わらなず、ただひたすらにやることをやってきた」と、鈴木監督は振り返る。野球部では身体的な練習の他に、精神面の成長にも重きを置いている。毎年、選手たちがその年の目標を相談して決めていく。今年は「甲子園出場」という目標を掲げた。練習する

「部員が多くなったときからやることは変わらなず、ただひたすらにやることをやってきた」と、鈴木監督は振り返る。野球部では身体的な練習の他に、精神面の成長にも重きを置いている。毎年、選手たちがその年の目標を相談して決めていく。今年は「甲子園出場」という目標を掲げた。練習する

「部員が多くなったときからやることは変わらなず、ただひたすらにやることをやってきた」と、鈴木監督は振り返る。野球部では身体的な練習の他に、精神面の成長にも重きを置いている。毎年、選手たちがその年の目標を相談して決めていく。今年は「甲子園出場」という目標を掲げた。練習する

「部員が多くなったときからやることは変わらなず、ただひたすらにやることをやってきた」と、鈴木監督は振り返る。野球部では身体的な練習の他に、精神面の成長にも重きを置いている。毎年、選手たちがその年の目標を相談して決めていく。今年は「甲子園出場」という目標を掲げた。練習する

「部員が多くなったときからやることは変わらなず、ただひたすらにやることをやってきた」と、鈴木監督は振り返る。野球部では身体的な練習の他に、精神面の成長にも重きを置いている。毎年、選手たちがその年の目標を相談して決めていく。今年は「甲子園出場」という目標を掲げた。練習する

「部員が多くなったときからやることは変わらなず、ただひたすらにやることをやってきた」と、鈴木監督は振り返る。野球部では身体的な練習の他に、精神面の成長にも重きを置いている。毎年、選手たちがその年の目標を相談して決めていく。今年は「甲子園出場」という目標を掲げた。練習する

目白短大に歯科衛生士学科誕生！

2019年4月、目白大学新宿キャンパスに短期大学部歯科衛生士学科が誕生する。併設の総合大学と連携して歯科衛生士について学べるのは、目白短大が23区内では初である。その特色を生かし、充実した学びの環境から歯科衛生士を送り出す。歯科衛生士学科の高久悟教授にその目白らしさを伺った。

「考える歯科衛生士」を育成する 目白短大はもとより、資格を取って働く女性を養成することを方針としました。保健医療や看護領域の学科はさまざまな岩槻キャンパスにあるのですが、短大課程にはなかったのが、いま改めて脚光を浴びている歯科衛生士の養成をしていきたいと思います。

なぜ歯科衛生士学科を新設したのですか？ 目白短大はもとより、資格を取って働く女性を養成することを方針としました。保健医療や看護領域の学科はさまざまな岩槻キャンパスにあるのですが、短大課程にはなかったのが、いま改めて脚光を浴びている歯科衛生士の養成をしていきたいと思います。

他の歯科関係の大学と目白の違いは何ですか？ 市内には、歯科衛生士を育成する学校として、短期大学、4年制大学、専門学校が多数あります。目白大学は文系中心ではありますが総合大学です。総合

座学と実習の割合はどれくらいですか？ 文部科学省「厚生労働省規定」に基づき、座学と実習の割合は2対8です。座学は基礎的な知識を学ぶため、実習は臨床に近い環境で学ぶためです。

先生の目指す歯科衛生士像を教えてください。 私たちが目指すのは、患者さんに対して適切なケアを提供できる、コミュニケーション能力が高い、チームワークがとれる人材です。

多様な進路を準備する 実習の内容や実習先は、専門学校の養成する歯科衛生士とは、一般の開業医の先生たちと異なり、幅広い分野で活躍できる人材を育てたいと考えています。



歯科衛生士学科の高久悟教授

JAPAN CUP 2018 日本選手権大会 第1位に輝く 目白研心中学校チアリーディング部

目白研心中学校チアリーディング部は、2018年度 JAPAN CUPにおいて全国第1位という輝かしい成績を残した。そこで顧問の松原里紗先生と、コーチの小室美樹さんに話を伺った。

国優勝に輝いた心境について、松原先生は「中学校では、生徒が宿題をきちんとやっているかを確認していること、学校生活の規律として、授業の態度なども厳しく思います。小室コーチは「嬉しいという気持ちもありますが、優勝とはどういうことなのかを考えると、生徒である以上、勉強すること、第二で、チアだけではいけないというところがこのチームの強さの源となっているのではないか。二人は共通するのは、全国優勝の重みと、とてもよいフィリッシャーであった。

目標は1位になる。とだけではない 松原先生は「100人部員がいて高校が2チーム、中学が2チーム。4チームが1つの完璧な演技を終わることに目標でしたが、真の目標は順位に関係なく、チーム一丸となって演技をするということだ」と笑顔で話す。大会当日は、強豪チームの後の演技で、生徒たちはフィリッシャーを感じているように見えたそうだが、実際はともラッククスとして、ミスをしてはいけないという気持ちよりも、ただ純粋に演技を楽しむ気持ちが大きかったと話した。松原先生は練習以外のこと

指導を続けている 松原先生は目白研心出身で、先生が入学した年度にチアリーディング部が大優勝を果たしたのをきっかけに、チアの道に進んだ。先輩たちを見て、チアリーディングの魅力に目覚めたそうだ。先生は「絵を描くように、口で話すように、チアリーディングで自己表現ができるのが魅力です」と語る。その後ずっとチアリーディングを続けていたのは、学生時代の顧問の先生の教えに感謝し「生徒たちには先生に教えていただいたこと、私自身の経験を伝えたいから」とのことだ。

今後の目標についても伺ったところ、松原先生は「日本一になったから何をやる、日本一だから何をしなければいけない」ということではない、やらなければならないことは人間教育で生徒一人ひとりが成長していくことだと思えます」と熱く語る。また小室コーチは「優勝したからかではなく、まず人間としてチアリーダーとして何をしなければいけないのかを明確にして、そこに向かって生徒たちが進めるように導いてあげたい」と思っています」と語る。

全国1位になったのはうれしい先生たちの教えがあったからであり、大切なことを失わない精神があったからだと感じた。

（編集部3年 寺本達彦）



JAPAN CUP 2018で全国第1位に輝いたチアリーディング



左：顧問の松原里紗先生 右：小室美樹コーチ

# 2018年ミス・ミスターコン優勝者に聞く

桐和祭 50周年!

50周年を迎えた桐和祭で、ミス・ミスターコンテストが開催され、小澤彩花さん(人間学部心理カウンセリング学科2年)と、高松脩生さん(外国語学部英米語学科3年)がグランプリを受賞した。2人にインタビューし、その心境などを聞いた。

## ま

ず、本年度ミス目白となった高松さんから。

——今回、ミスコンやミスターコンが開催されることはご存知でしたか？

——では、どのような経緯でエントリーに至ったのですか？

——高松さんは軽音部でどのような活動をしていましたか？

——桐和祭が近づくと、自分所属している軽音部を背負っているという気持ち、来年度の新生に「軽音部にはミスターコンでグランプリを取った人がいるよ」と話しているメンバー

## 続

——まず、目白大学に入学したきっかけを聞かせてください。

——高松さんは軽音部でどのような活動をしていましたか？

——ミスコンに出場した経緯や理由を教えてください。

——ミスコンに向けて何かしたことはありますか？

——小澤さんは、休日ほどのように過ごしていますか？

——桐和祭が近づいて、まわりの支えなどを実感したときの心境は？

——ギターを担当しています。最近、My Hair is Badというバンドの曲をやっています。1年生や2年生のころは、嵐などのポピュラーな曲をやっていたんですが、最近自分がやる曲はいわゆる「モテ曲」ばかりです。(笑)

——エンタリーをしてから、友人など周囲からの反響はありましたか？

——反響は多かったと思います。多くの友人から「ミスターコン頑張っつねー」などと、応援の言葉をたくさんいただきました。ですが、いじられることも多々ありました。(笑)

——これがグランプリに繋がった！というエピソードを聞かせてください。

——桐和祭当日、教室で縁日を開催していましたが、常に笑顔で心がけるようにしていました。この経緯は将来、自己紹介するときにも使えて、自分自身を覚えてもらいやすいかなと思います。

——最後に来年のミス・ミスターコンに参加してみたいと思います。

——ミスコンに出場することが決まっていたから、あまり話したことのない人から「ミスコン頑張っつねー。応援してるよ」と声をかけられて「こんなに応援してくれる人がいるんだ。がんばらなきゃ」と思いました。このときにまわりの方々の支えを強く感じました。

——ミスコンで優勝が決まった瞬間はどんな気持ちでしたか？

——自分の名前が呼ばれたときは頭の中真っ白になりました。私には、自分自信がないネガティブな人物でした。でも、ミスコン出場が決まっても、ミスコンの話や応援してくる人たちの声を聞いたときに「自分が出場していいかな」と思っていました。少しは自分自身に自信が持てました。

——ミスコンをきっかけに変わったと思いますか？

——私は、自分に自信がないネガティブな人物でした。でも、ミスコン出場が決まっても、ミスコンの話や応援してくる人たちの声を聞いたときに「自分が出場していいかな」と思っていました。少しは自分自身に自信が持てました。

——小澤さんは、休日ほどのように過ごしていますか？

——桐和祭が近づいて、まわりの支えなどを実感したときの心境は？



ミスター・コンテスト第1位の高松脩生さん



ミス・コンテスト第1位の小澤彩花さん

## 新しい「コミュニティ」の中心へ

### 新キャンパス新校舎「百年館」

1923年に創立した目白学園は、2023年に100周年を迎える。それを記念して、もともとキャンパスの端にあった8号館が2020年、キャンパスの中心に「百年館」として生まれ変わる。新しく新キャンパスの顔となる百年館はどのような建物になるのだろうか。現在建設中の百年館を紹介する。

## 現

在、新キャンパス 兼ねて、キャンパスの中央部に建設中だ。学内の環境整備の一環として、大学・短期大学部校舎の講義室、研究室、実習室および管理棟が計画された。教室の敷地が増えることにより、現在より2階からなる百年館は、現在使用されている8号館の建て替えを兼ねて、キャンパスの中心部に建設される。百年館の地上3階と地下1階が10号館・鳥館と直接通路で繋がっており、スムーズに行き来することができるようになる。また、百年館の地下3階と地下1階が10号館・鳥館と直接通路で繋がっており、スムーズに行き来することができるようになる。また、百年館の地下3階と地下1階が10号館・鳥館と直接通路で繋がっており、スムーズに行き来することができるようになる。



上：外周がガラス張りである百年館は、中まで光が届く明るい校舎となる  
下：3Fラーニングラウンジ...各階にラウンジやコミュニティエリアがあり、学生に新しい居場所を提供する

## ハブ校舎として

新キャンパスの中心部に建設される百年館は、周辺の校舎から直接アクセスできるようにする。百年館の地上3階と地下1階が10号館・鳥館と直接通路で繋がっており、スムーズに行き来することができるようになる。また、百年館の地下3階と地下1階が10号館・鳥館と直接通路で繋がっており、スムーズに行き来することができるようになる。

## 「コミュニケーション」活性機能も担う

現在の8号館の解体に伴い、社会情報学科の事務室が移動して、百年館はさまざまな学科の授業や研究室として活用される。各階にラウンジやコミュニティエリアといった学生が利用できるフリースペースが設置され、学生のコミュニケーションをより活発にすると同時に、学生たちの新しい居場所として機能する。

## 妖怪文化を紐解く

### 図書館ミニ展示会関連講演会を聴講して

2018年6月25日～7月25日、目白大学新宿図書館では「妖怪文化を紐解く」と題されたミニ展示会が開かれ、7月13日には関連講演会が開催された。講演会では、目白大学外国語学部日本語・日本語教育学科の岩下均教授が日本人の生活の中から生まれた民間信仰現象の「妖怪」について、稀観本(図書館蔵)などを参照しながら、民俗学、日本文学の立場から妖怪文化を解説する興味深い内容であった。

## 妖怪と日本人の関係

### いろいろな妖怪の誕生

妖怪は、人間の心の闇、恐怖心から生まれたものである。例えば、暗闇や背後など実際に目に見えないところ、社会に対する不安などが妖怪を生む。過去の歴史を見ると、戦国時代や幕末など、社会情勢が不安定になる時代が下がる時、人(道)から生まれる妖怪が登場する。これは、人々が自然から離れた、人間関係が生活の重要な要素となり、四合縁談のような人間の幽霊や妖怪が主流になる。

## 日本人の妖怪への思い

### 日本人の妖怪への思い

人間は、身近にある目に見えないもの、未知なるものへの恐怖心をそのままにしておくのは不安なので、それをコントロールするために名前を付け、形を与え、押さえた。そうして自分を安心させてきたのである。日本の妖怪は、八百万の神と結びつきが強い。菅原真実のように、怨霊も祀るに神になり、私たちが守ってこれたものもある。昔から妖怪は、必ずしも



上：目白大学新宿図書館内に展示された河童の蔵書の一部  
下：目白大学新宿図書館内に展示された狐火の蔵書の一部

# 目白大学×新宿区 共同プロジェクトでCM制作

2016年3月に目白大学と新宿区が包括連携協定を結んだことをきっかけに、目白大学社会学部メディア表現学科では、新宿区とのコラボレーション企画「映像による情報発信プロジェクト」を行っている。学科の3つのゼミがそれぞれイベントのCMを制作し、新宿区の街頭大型ビジョンにて放映された。各プロジェクトのリーダーに話を聞いた。

## 躍動感を求めた「しんじゅく若者会議」CM

CM制作第一弾では、区に関するテーマについて参加者同士で討論する「平成30年度しんじゅく若者会議」のCMを、西尾典洋准教授のゼミに所属する学生たちが制作した。「しんじゅく若者会議」は18〜39歳の新宿区民を対象としており、若い世代にも区政に関心を持って参加してもらえようという趣旨で、疾走感溢れるCMとなっている。



街頭の大型ビジョンに放映されたCM

健太朗さんは、どのようにすればCMを見た人がイベントに来たくなるかを考えて制作に臨んだそうだ。「イベントの内容がわかりやすいように、過去に撮影されたしんじゅく逸品マルシェの写真をたくさん用いてCMを制作しました。イベントを知らない人や、名前を知っていてもどんなイベントなのかわからなかった人がこのCMを見て、少しでも興味を持ってこれたり、参加したいと思ってくれたら嬉しいです」と語った。

## CMは新宿区のホームページで公開中

インタビュで印象に残ったのは、30秒で伝えたいことをきちんと伝え、かつ時間内に収めるということが、各グループに共通したCM制作の課題であったことだ。それらを乗り越え完成させるまで学んだことを、各々これからのゼミ活動に生かしていきたいという。

## 食い違う意見を取りまとめた「ふれあいフェスタ」CM

第二弾では「大新宿区まつりふれあいフェスタ2018」のCM制作の様子



上：実際のCM制作の様子  
下：プロジェクトリーダーの3名の学生

## 映画予告編をイメージした「しんじゅく逸品マルシェ」CM

第三弾、プロジェクトの最後

制作されたCMは「映画の予告編のカウントダウンをイメージした」しんじゅく逸品マルシェのCMを彷彿させる作りになっている。

新宿区ホームページ  
<https://www.city.shinjuku.lg.jp/>

# 中野新橋 地元で愛される「コーヒースタンド」 一周年を迎えて

東京メトロ丸ノ内線・中野新橋駅近郊の「TRICHROMATIC COFFEE(トリクロマティックコーヒー)」。ちよと贅沢な「コーヒースタンド」をコンセプトに、果実味あふれる「コーヒー」、特製ホットドック、スイーツなどこだわりのメニューが並ぶ。2017年の9月にオープンしてから、一周年を迎えた「TRICHROMATIC COFFEE」のオーナー兼店長の石原さんに話を伺った。

内はカウンター席が4席、人がけのベントリ席、また屋外でコーヒーを楽しむテラス席もある。カフェスペースの内装は白と黄色を基調とした暖かい雰囲気、かわいらしい店内だ。初めて訪れる人も入りやすい。オーナー兼店長の石原さんは、学生時代から飲食店に興味があり、自分で商売をしたいという気持ちが強かったと話す。カフェをオープンする前は、サラリーマンとして働いていたという。カフェでのアルバイト経験や「コーヒー豆を焙煎する」という興味が高じて、ついに自分でカフェをオープンすることになった。

「TRICHROMATIC COFFEE」のコンセプトは「三原色」という意味だ。組み合わせ次第でどんな色にもなり、変化していくことから、店も進化し続けられるようにとの名前をつけたそうだ。

「TRICHROMATIC COFFEE」のコンセプトは「三原色」という意味だ。組み合わせ次第でどんな色にもなり、変化していくことから、店も進化し続けられるようにとの名前をつけたそうだ。



左：ドリップコーヒー(ケニア・カシマ)、右：チャイ



ドリップコーヒーを淹れる石原さん

「TRICHROMATIC COFFEE」のコンセプトは「三原色」という意味だ。組み合わせ次第でどんな色にもなり、変化していくことから、店も進化し続けられるようにとの名前をつけたそうだ。

「TRICHROMATIC COFFEE」のコンセプトは「三原色」という意味だ。組み合わせ次第でどんな色にもなり、変化していくことから、店も進化し続けられるようにとの名前をつけたそうだ。

「TRICHROMATIC COFFEE」のコンセプトは「三原色」という意味だ。組み合わせ次第でどんな色にもなり、変化していくことから、店も進化し続けられるようにとの名前をつけたそうだ。

「TRICHROMATIC COFFEE」のコンセプトは「三原色」という意味だ。組み合わせ次第でどんな色にもなり、変化していくことから、店も進化し続けられるようにとの名前をつけたそうだ。

TRICHROMATIC COFFEE  
住所：〒164-0013 東京都中野区弥生町2-23-7  
TEL：080-4413-4416  
営業時間：平日 9:00-20:00、土日祝 9:00-19:00  
定休日：月曜日  
ホームページ：http://trichromaticcoffee.tokyo/

# 男女で担ぐ神輿 中井御霊神社例大祭

中井のイベントといえば、何を思い浮かべるだろうか。「染の小道」と答える人が多いだろう。しかし、中井には「染の小道」に負けないくらいに盛り上がりがあるイベントがある。それが「中井御霊神社例大祭」だ。この例大祭について、中井商工会の会長を務める丸山博史さんに伺った話をまとめる。

## 2か月かけて例大祭を準備する

中井商工会が例大祭に向けての準備は多くある。7月に行われる例大祭に向けての世話役の人たちの話し合いから始まり、



例大祭の様子

「中井御霊神社例大祭」は、毎年9月末日(土)に開催される。中井御霊神社と中井睦会という組織が例大祭に関わり、丸山さんは中井睦会に所属して毎年地域を盛り上げるべく例大祭の企画・準備に携わっている。

「中井御霊神社例大祭」は、毎年9月末日(土)に開催される。中井御霊神社と中井睦会という組織が例大祭に関わり、丸山さんは中井睦会に所属して毎年地域を盛り上げるべく例大祭の企画・準備に携わっている。

「中井御霊神社例大祭」は、毎年9月末日(土)に開催される。中井御霊神社と中井睦会という組織が例大祭に関わり、丸山さんは中井睦会に所属して毎年地域を盛り上げるべく例大祭の企画・準備に携わっている。

「中井御霊神社例大祭」は、毎年9月末日(土)に開催される。中井御霊神社と中井睦会という組織が例大祭に関わり、丸山さんは中井睦会に所属して毎年地域を盛り上げるべく例大祭の企画・準備に携わっている。



男性に交じって女性も神輿を担ぐ

## 例大祭でも女性の担ぎ手が増える

例年通りの盛り上がりを見せた例大祭だが、年々ともに変化している部分もある。例大祭では、女性も神輿を担ぐようになり、女性も担ぎ手が増えている。これは、神輿の担ぎ手に女性が

例大祭では、女性も神輿を担ぐようになり、女性も担ぎ手が増えている。これは、神輿の担ぎ手に女性が



# バナナを福島の子どもたちへ

## 長崎ゼミフエートレードでマーケティングを学ぶ

社会学部社会学科長崎教授のゼミでは、毎年企業との産学連携プロジェクトを行っています。2018年度提携した団体は、NPO(特定非営利活動法人)のAPLA(Alternative People's Linkage Asia)で、フエートレードの製品を使った製品を企画し販売しました。

フエートレードとは何か  
APLAは、日本を含むアジア各地で「農産物に地域自立」を目指す人たちが出会って経験を活かして、協働する場を作り出すことを目的に設立され、フエートレード商品の販売を行いながら生産地を支援しています。



昨年10月の桐和祭でバナナスムージーを販売、予想よりも速かに売れた

長崎ゼミでは、フエートレードについて知ることから始めました。フエートレードとはどのような取り組みか、目的は何か、商品作りを行うにあたって必要な知識をゼミ生全員で共有しました。

「バナナ募金」へ寄付  
長崎ゼミの夏合宿では、APLAを訪ねた際のアドバイスを参考に、バナナスムージーの仕様や広告案について意見を出し合いました。当実際の使用するフエートレードのパッケージデザインを模倣したバナナ・パラゴンバナナで作ったスムージーを試飲した全員の意見を参考に、製品の仕様を決定しました。広告案については4年生の先輩からの意見を参考に、目にするようなポスター案や展覧会案を夏休み後のゼミでは、より詳細な打ち合わせを行いました。

# 授業と連動した企画展示を図書館で開催

## ナウシカ誕生とその時代展「アニメ雑誌『アニメージュ』の周辺から」

年12月、目白大学新図書館にて企画展示「ナウシカ誕生とその時代展」を開催しました。その時代展「アニメ雑誌『アニメージュ』の周辺から」が、本館1階「子ども文化館」にて開催された。この展示は、子ども文化館と図書館が連携して、子ども文化館の運動企画として、授業を担当した私の監修のもと、授業内で紹介・鑑賞する作品にまつわる資料の展示・解説を行ったものである。

異なっている。さらに、映画公開後の動向に目を向けてみる。この展示は、約14・8億円の興行収入を記録するともに、映画・音楽ソフトなどの関連商品の売り上げを含め、商業的に大きな成功を収めることになった。この出来事が、後のスタジオジブリへと繋がっていったのである。

「風の谷のナウシカ」は現在、スタジオジブリを代表する作品の一つとして広く知られています。しかしながら、本作はスタジオジブリの設立(1985年)よりも前に制作・公開されているため、本館では、資料と知られていない「風の谷のナウシカ」の制作からスタジオジブリ設立へ至る流れを今一度ふりかえり、「風の谷のナウシカ」映画公開前後に行われた宣伝・商品展開から、本作が当時のどのような盛り上がりを見たのかを確認していきます。

平成30年度秋学期 子ども学科専門科目「子ども文化論」運動企画  
**ナウシカ誕生とその時代展**  
—アニメ雑誌『アニメージュ』の周辺から—

期間 2018/12/3(月)～12/25(火) ※12/14(金)に展示替えあり。

会場 目白大学新図書館 本館1階 PC室前

観覧時間 平日 9:00～21:00 (最終日25日は17時閉館です。)  
土曜 9:00～17:00  
日曜 閉館

お問い合わせ 目白大学新図書館  
〒161-8539 東京都豊島区中野4-31-1  
TEL: 03-5996-3140 FAX: 03-5996-3248

告知ポスター(イラストは図書館スタッフの中村りさ子さん)

なるといわれる。また、バナナスムージーの販売に向けてさらに熱が入りました。また、APLAに訪問し、桐和祭で実際に使うバナナはどのくらい仕入れられるのかなどの打ち合わせも行いました。そこでいくつかのアドバイスをいただき、製品の仕様や展示について参考になりました。



企画展示開催中の様子

## 目白大学のフリーペーパー「MEJImag(めじマガジン)」 「日本タウン誌・フリーペーパー大賞」 の部門優秀賞に

白大学メディア学部が発行するフリーペーパー「MEJImag(めじマガジン)」が、「日本タウン誌・フリーペーパー大賞2018」(日本地域情報振興協会主催)の「コミュニティ・ライフスタイル部門」で優秀賞を受賞した。この賞は、2018年12月4日、東京・有明コロシアムで開催された授賞式で、目白大学メディア学部メディアディレクトリ編集長を務める中野野矢(ののや)教授が、目白大学新図書館で授賞式を行った。

この雑誌は2017年秋に創刊し、「学生目線による地域情報誌」を目指し、新宿キャンパス周辺の中井・落合地域や、西武新宿線・都営地下鉄大江戸線沿線の話題を取り上げている。

A4判、32ページフルカラーで年1〜2回発行。学内のほか、包括連携協定を結んでいる新宿区役所や西武...



「MEJImag vol.03」の表紙

下の授賞式で、表彰状を手にする田代編集長

# 児童虐待防止に活動する宇野ゼミ

## 桐和祭でオレンジリボン運動をアピール

児童虐待による死亡事件は年間50件を超えています。つまり、1週間にも人の子どもが命を落とすという現状にあります。児童相談所が2017年度は13万3778件で過去最多となりました。まずは、この事実を受け止めてはならないと、児童虐待防止を目的とした「虐待防止」です。

児童虐待防止に活動する宇野ゼミは、認定NPO法人児童虐待防止全国ネットワークが活動の窓口です。また、バルーンアートや紙芝居を実践し、子どもが楽しく遊べる空間をつくりました。2日間、300人を超える来場者がありましたが、アンケートにおいて「オレンジリボン運動についてもっと詳しく教えてほしい」「虐待をなくすために自分ができることがわからない」「この意見をもらい、さまざまな改善点を見つけていこう」という目標の達成はまだまだですが、児童虐待の現状やオレンジリボン運動の存在を知ってもらうことができました。



昨年の桐和祭での宇野研究室のポスター。マスコットキャラクターが描かれ、中央には穴があり、顔を出せる。写真で顔を出しているのは、うさぎの「キャラちゃん」、その下は正義のヒーロー、「オレンジジャー」の人物

宇野ゼミの強みは、マスコットキャラクターが「オレンジジャー」です。今までのオレンジリボン運動の活動状況をお知らせするツイッターアカウントがありましたが、親しみやすい「キャラちゃん」と「キャラちゃん」として、私たちが虐待防止のためにできることを具体的に発信していきたいと考えています。(宇野研究室)

児童虐待防止に活動する宇野ゼミは、認定NPO法人児童虐待防止全国ネットワークが活動の窓口です。また、バルーンアートや紙芝居を実践し、子どもが楽しく遊べる空間をつくりました。2日間、300人を超える来場者がありましたが、アンケートにおいて「オレンジリボン運動についてもっと詳しく教えてほしい」「虐待をなくすために自分ができることがわからない」「この意見をもらい、さまざまな改善点を見つけていこう」という目標の達成はまだまだですが、児童虐待の現状やオレンジリボン運動の存在を知ってもらうことができました。

- 編集長 大野あかね
- 編集部 秋山翔大、小林杏奈、小坂元輝、坂本佑芽、佐藤明子、坂本穂沙、中野大志、寺本達彦、寺本達子、東原廣希